

地域特産物における中核的 経営者の育成と産地支援

計画年度：令和3年～令和5年



西部農業事務所 富岡地区農業指導センター

1

1 課題設定の背景及び理由①

- ・コンニャクの**価格低迷**が続いている。
- ・価格は**5,000円弱/30kg**から**4,000円強/30kg**に低下
- ・資材高騰もあり、**経営が不安定化**
- ・部会員数が**96名**から**63名**に減少
- ・高齡化も進んでおり、耕作放棄地も増加

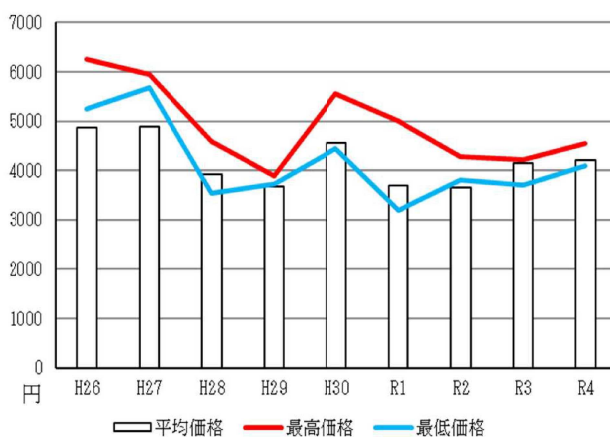


図1 コンニャク生玉販売価格の推移
※最高・最低価格はみやままさりの販売単価

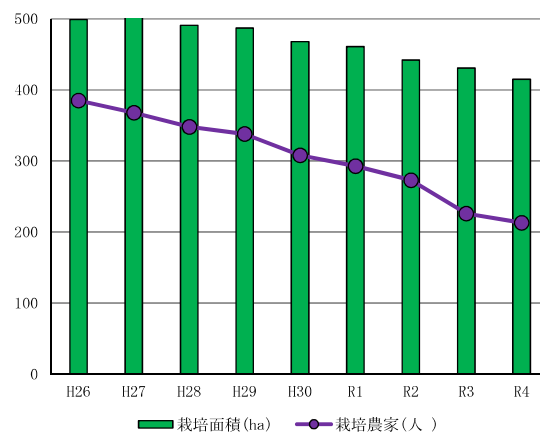


図2 栽培農家数と栽培面積

2

1 課題設定の背景及び理由②

- ・ 当管内の生産者の3割は松義台地で大規模に栽培
- 【参考】松義台地について
- ・ 安中市松井田町と富岡市妙義町にまたがる
- ・ 令和2年に土地改良整備事業が完了
- ・ 隣接する安中市横野平と併せ513ha整備
- ・ 作業効率が向上、機械化が徐々に進展
- ・ 令和3年までの取組で根腐病多発ほ場の減少に貢献

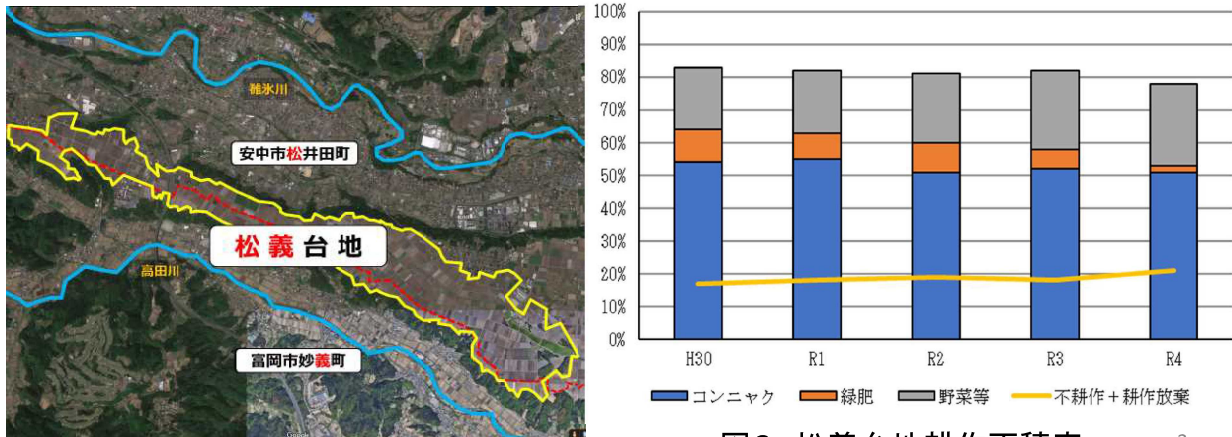


図3 松義台地耕作面積率

3

2 主な推進課題と解決手法

(1) 研究会組織支援による中核的経営者の育成

- ・ 組織活動支援によるコンニャク産地の強化
- ・ 研究会組織と連携した生子休眠対策の確立

(2) コンニャクほ場越冬栽培導入による低コスト栽培の定着支援

- ・ ほ場越冬栽培の導入支援の試験ほの設置

(3) 補完作物導入およびセーフティーネット加入推進における所得安定対策

- ・ 経営補完作物品目選定と導入支援
- ・ セーフティーネット加入推進のための巡回・研修会の開催

(4) 松義台地を基幹とした畑作振興

- ・ 関係機関が連携した松義台地の振興

3 到達目標(目標年次の姿)

目標	年次	R2	R3		R4		R5	
	現状	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
コンニャクほ場 越冬栽培面積(ha)	14	15	22	23 [16]		24 [17]		
JA甘楽富岡コンニャク 出荷量(t)	4,163	4,200	4,423	4,500		4,800		
経営補完作物 新規導入者(人)	0	1	5	3 [1]		3 [1]		



越冬栽培によるコスト低減や栽培技術の見直し、
経営補完作物の導入による産地強化を目指す

5

4 活動経過及び結果

(1) 研究会組織支援による中核的経営者の育成

<活動経過>

- 甘楽富岡こんにゃく研究会組織活動支援： **4回**
夏期研修会、生育検討会、冬期研修会等（目標値：6回）
- 各地区こんにゃく研究会組織活動支援： **9回**
生子休眠試験ほ等の設置、異品種抜き講習（目標値：16回）
- 若手生産者組織Team West組織活動支援： **3回**
ほ場越冬栽培試験ほの設置、栽培講習会（目標値：6回）



写真 生育検討会の様子



写真 Team West収穫作業

6

4 活動経過及び結果

<活動結果>

- 各研究会の行事を開催し、生産者間の交流機会を創出し、生産技術に関する意見交換及び情報共有が図れた。
- **生産技術向上には生産者間の情報交換が重要であることが再認識された。**
- 栽培上の課題である**生子の休眠発生**について、実証ほを設置し、結果を踏まえた**適正管理について指導**を行った。
- **若手生産者**を対象に**生子休眠発生メカニズム等を講習**したところ、理解が深まった。

7

4 活動経過及び結果

(2)コンニャクほ場越冬栽培試験ほ設置による 低コスト栽培の定着支援

<活動経過>

- 松義台地コンニャクほ場越冬栽培各種調査：**4回**
年生、病害発生程度、作付面積等（目標値：4回）
- ほ場越冬栽培実証ほ設置：**1箇所**（目標値：1箇所）
- ほ場越冬栽培実証ほ結果報告会：**3回**（目標値：2回）



写真 ほ場越冬栽培の様子



写真 越冬栽培現地研修会の様子

8

【参考】コンニャクほ場越冬栽培について

- ・通常栽培は、1年目の春に植え付けて、秋に種芋を収穫・貯蔵。2年目の春に植え付けて、秋に販売用の芋を収穫。
- ・越冬栽培は、1年目の春に植え付けて、秋に収穫せずほ場で越冬させ、2年目の秋に販売用の芋を収穫。



越冬栽培生育の様子

慣行比で

作業労働時間：34%減少

資材費：26%減少

省力化かつ低コスト化栽培が可能に！

9

4 活動経過及び結果

＜活動結果＞

- ・ほ場越冬栽培作付調査等を松義台地中心に行い、栽培面積を把握できた。
- ・越冬栽培実証ほを設置し、適正な植付種芋の重量を把握することができた。
- ・実証ほの結果は研究会の研修会等に配布を行い、栽培上の注意点や低コスト化につながることをPRし、推進を行うことができた。



写真 実証ほ収穫調査

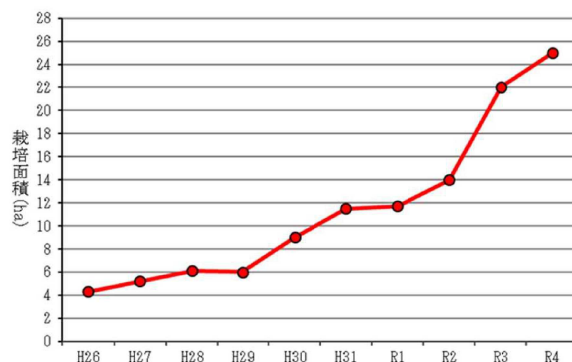


図4 ほ場越冬栽培面積(ha)

10

4 活動経過及び結果

(3) 補完作物導入およびセーフティーネット加入推進 における所得安定対策

<活動経過>

- 経営補完作物栽培講習会・研修会：2回（目標値：4回）
- トウキ栽培実証ほ設置：1箇所（目標値：1箇所）
- 収入保険に関する研修会・巡回：5回（目標値：3回）



写真4 トウキ実証ほ調査の様子



写真5 収入保険説明の様子

11

4 活動経過及び結果

<活動結果>

- ・経営補完作物に関する講習会を2回行い、ネギ類栽培に興味を持ってもらうことができた。
- ・トウキ実証ほで、慣行区に比べてアルミ蒸着フィルム区の発芽揃いが良く、雑草の発生も少ない傾向が認められた。
- ・収入保険の研修会や加入推進の巡回を行い、新たに8名の生産者が加入
- ・農業資材の高騰や価格低迷に備えて、収入保険に加入する生産者が増加

12

4 活動経過及び結果

(4) 松義台地を基幹とした畑作振興

<活動経過>

- 松義台地関係者打ち合わせ：5回（目標値：3回）
- 松義台地営農会義：3回（目標値：2回）
- 空撮を併用したコンニャク作付・病害調査：2回（目標値：1回）

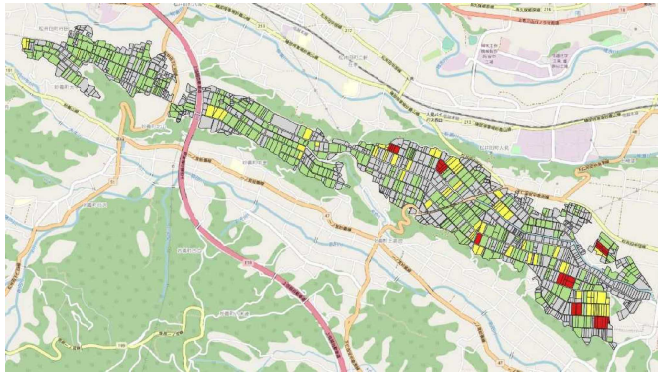


写真 調査結果のGIS図



写真 調査台帳への記入

13

4 活動経過及び結果

(4) 松義台地を基幹とした畑作振興

<活動結果>

- ・関係者が、連携して振興を図るため、以下のとおり、会義や調査を実施し、結果等の情報共有を図った。
- ①松義台地耕作面積率 82%→79%
- ②コンニャク栽培面積率 52%→51%
- ③価格低迷が続いているが、コンニャク栽培面積は微減。コンニャク主体の経営を続ける意向が強い。
- ④これまでの調査結果から、根腐病対策として、種芋の選別の徹底を指導

14

5 到達目標に対する実績

目標	年次		R2		R3		R4		R5	
	現状	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
コンニャクほ場 越冬栽培面積(ha)	14	15	22	23 [16]	25	24 [17]				
JA甘楽富岡コンニャク 出荷量(t)	4,163	4,200	4,423	4,500	4,853	4,800				
経営補完作物 新規導入者(人)	0	1	5	3 [1]	3	3 [1]				

- ・越冬栽培は労力その他、低コスト化のメリットもあり、新たな栽培者が増えるなど、**25ha**となった。
- ・組織活動や研修会等で生産者の栽培技術は向上、出荷量は**4,853t**となった。
- ・補完作物新規導入者は**3人**。経営安定化にむけて、補完作物よりも収入保険を選択する傾向

15

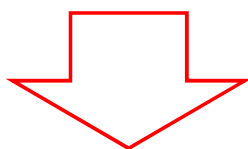
6 残された課題と今後の対応

課題1 コンニャクほ場越冬栽培販売玉の流通方法

- ほ場越冬栽培のコンニャク芋は大きく、業者から敬遠されがち
- ほ場越冬栽培を増加させるためには流通経路の確保が必須



越冬栽培の収穫したコンニャクイモ



【対応】

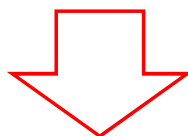
- ほ場越冬栽培の生玉流通について、JAや全農ぐんまとの情報交換を行い、業者等も交えた話し合いを実施し、安定的な流通経路を確保する。

16

6 残された課題と今後の対応

課題2 研究会組織の構成員減少

- 今後離農者が増加した場合、研究会活動が停滞する可能性が高い。
- 担い手不足により、研究会の存続自体が難しくなる。



【対応】

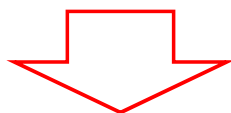
- 若手生産者を巡回し、加入推進を行う。
- 若手が中心のTeam Westの活動を通じて、将来の中核的な担い手を育成する。

17

6 残された課題と今後の対応

課題3 経営補完作物導入の推進

- 大規模専業農家が多く、品目を増やすことが難しい。
- 経営補完作物を栽培する上で新たな機械導入は経営的に厳しい。
- 松義台地は**用水が無い**ため、新たな補完作物は、**かん水を必要としない**土地利用型作物に限られる。



【対応】

- 経営補完作物として**ネギ類導入マニュアル**の作成し、大規模農家でも導入しやすいように複合可能な面積計算等も掲載。
- 新たな土地利用型作物として、**サツマイモ**等を検討

18

ご静聴ありがとうございました

